

Case 22-2006: A 77-Year-Old Man with a Rapidly Progressive Gait Disorder  
( Volume 355: 296-304 )

【症例】77 歳男性

【Problem List】

**#1 上肢・下肢筋力低下**

入院 4 ヶ月前に転倒で発症し、理学療法を行ったが増悪傾向にある。入院時は椅子からの立ち上がりや階段昇降に困難を覚える。徒手筋力検査では一部の筋肉に軽度低下（4 程度）を認める。深部腱反射は亢進し、Babinski 反射は陽性である。

なお 2 回目の入院時には自力で歩行できなくなった。上肢下肢に広汎に線維束性攣縮が認められ、特に手内筋に著明だった。徒手筋力検査の結果は悪化している。

**#2 歩行障害**

他院で失調性歩行を指摘されている。入院時の診察では歩き方がゆっくりで不安定、歩幅が小さく、足元を見ながら歩く。Tandem walking では左右どちらにも倒れる。また長時間の歩行で下腿に疼痛が生じる。

**#3 構音障害**

軽度の構音障害が認められている。また舌左側の筋力低下を指摘されている。

**#4 認知機能障害**

入院 2 日前の他院での診察で、3 分間で三つのもののうち一つしか思い出せないなど記憶力の低下が認められたほか、指示に対して錯乱する様子が見られた。

**#5 感覚障害**

下肢の軽度な振動覚低下を指摘されている。また 2 回目の入院時には両側指の正中神経領域にしびれ感を認めた。

**#6 全身倦怠感**

入院 18 ヶ月前の右下肢膿瘍以降、疲労感が続き徐々に悪化している。

**#7 乾性咳**

入院 2 ヶ月前ごろから認められる。

**#8 肩の疼痛**

入院 6 ヶ月前から始まった。インピンジメントと診断され局所麻酔薬とステロイドで治療されている。

**#9 尿失禁**

前立腺全摘術後である。Imipramine を服用したこともある。

**#10 右下肢膿瘍**

入院 18 ヶ月前。デブリドマンと抗生剤で治癒した。

**#11 右下肢深部静脈血栓症**

入院 17 ヶ月前に生じた。現在、Warfarin を服用中である。

**#12 既往歴**

高脂血症、前立腺癌の既往がある。